

音楽の世界で今何が起きている??

阿部 竜之介 『Pepeの視点』

October / 11 / 2013 # 7

Trombone & Euphonium奏者の阿部竜之介(Pepe)です。

このメールマガジンでは、僕から見た今の音楽の世界で起きていること、また演奏に関するヒントなどをお届けしていきます。

またメルマガ内でもいろいろな質問に答えていこうと思っていますので、どんどん質問してきてくださいね！

INDEX

[1] 旬な話題、気になる話題

『国際ソロコンクール』

[2] Pepeのひとりごと

『気分転換』

[3] おすすめ動画

『Trumpet Concert in E-flat major(1796) - Joseph Haydn(1732-1809) 2 & 3 mvt』

『Stars and Stripes - Bones Apart "Ten"』

[4] 演奏のヒント！

『スケール（音階）練習』

[5] 編集後記

[1] 旬な話題、気になる話題

『国際ソロコンクール』

2、3日前、クロアチアのチューバ吹き友人からメッセージをもらい、来年2014年に開催されるチューバの国際ソロコンクールの情報について聞かれました。

もちろん彼は僕がチューバ吹きではないことを知っていますが、他に尋ねるところがなかったのでしょう。

いろいろと僕に分かる範囲で調べて来年あるコンクールの情報を教えてあげたのですが、その時に、今はインターネットで情報を手に入れることが簡単にできるようになったからなのか、コンクールの詳細（プログラムなど）の発表が一昔前に比べて早くなっていると感じました。

僕はいろいろな国際コンクールを今までに受けてきていますが、初めての国際コンクールは高校3年生の頃、1995年でした。

その頃に比べると、格段に情報は簡単に探せられるし、申し込みや問い合わせも簡単になっていますね。

だからこそ、若い人たちにはどんどん外に出てたくさん勉強していってほしいと思います。

今の時期が、来年開催されるコンクール情報を探するのにいい時期だと思います（実際に自分がいろいろと調べてみてそう感じました）。

まだ詳しい情報が出ていないものもありますが、サイトへ行くと開催の大体の時期（過去のデータを見ると大体わかります）もわかるし、過去のデータからどのような曲がプログラムに上がるのかはわかってきます。

今までそのようなことを考えたことなかった人も、ぜひこれを機に一度考えて（調べて）みませんか？

スケジュールや経済的な理由で参加できないことはあると思いますが、それでもプログラムに上がっている曲目を集めてさらってみる、一つのラウンドで演奏しないといけない曲たちを、一度にすべて吹ききれぬのかをやってみる、ということをするだけでもいい練習になると思いますし、いい刺激を受けると思いますよ。

コンクールを受けることは、いい賞をとるためというより、それに向かって練習を重ねることによって手に入れることができる経験（のちに教えるときにとても役に立ってくると思います）がなによりも大切なことだと思います。入賞や賞金などの目的は、自分が頑張れるようにするための一つの要素ですね（笑）。

現地で他の参加者の演奏や練習、ウォームアップ風景などを見て聴いて、勉強になることは数えきれません。あと、国際コンクールともなると、名だたる名奏者の方たちが審査員になっているでしょう。

その人たちが自分の演奏を真剣に聴いてくれ、あとで自分が聞きにさえ行けば、自分の演奏について詳しく説明やアドバイスをしてくれます（この辺りが日本のソロ・コンクールと大きく違うところでしょうか?）。

あと、他の国に行くことによって新たな自分を発見することも多くあると思いますよ（音楽の面以外での発見も含む）。

ぜひこの機会に自分の中にある「チャレンジ精神」にもう一度火をつけてみませんか？

便利になった世の中を便利に使って、みんなで成長していきましょう！！

[2] Pepeのひとりごと

『気分転換』

最近Tromboneで練習したいことがすごく多くて、頭の中でも常にTromboneのことが優先的にありました。

11月末にリサイタルをするのももちろんEuphoniumでもやりたいことは山のようにあるのですが、時期を考えるとTromboneのほうが優先順位が先になってたんです。

そういう状態のこの時期ですが、数日前に少しの勇気を出してEuphoniumから練習してみました。

するとどうでしょう・・・。

と～～～っても気持ちよく&気分よく練習（というか音楽）をすることができました！！

これは、楽器を2種類以上吹く人（AltoとTenorや、調性の違う楽器の2種類でも当てはまります）にしかわからないと思いますが、この気分転換はそれぞれの楽器の練習にもなりますし、何より前向きな気分転換だと思っています。

何かの練習をあと数日でやらないといけない！という期限が迫っている危機感がかなり上がっている時にこそ、少しでもいいのでぜひやってみてくださいね！

きっと本当にやらないといけない楽器での練習がはかどりますよ！！

[3] おすすめ動画

『Trumpet Concert in E-flat major(1796) - Joseph Haydn(1732-

1809) 2 & 3 mvt』

<http://www.youtube.com/watch?v=FCcZ90NWHZM>

今回は、女性プレイヤーを紹介しますね。

Tine Thing Helsethさんは、ノルウェー出身のTrumpet奏者です。

とてもきれいな音色で、自然に歌うスタイルが僕は好きです。

コンチェルト（協奏曲）の第2楽章のようなゆっくりとしたきれいな曲の場合、よく「歌い込む」ことをしますが、日本人奏者の中には「歌い込みすぎる」ことがあるのを耳にすることがあります。

言葉で上手に説明するのは難しいのですが、歌い込むと演歌のようにコブシが入ってしまってクラシック音楽になじまない演奏になってしまったり、音楽が前に進まなくなってしまう。

僕はこれが好きではなく、自分で演奏する際には流れが止まらないように常に気をつけて歌うようにしています（なので、よくあっさり気味になっていることがあると思いますが。笑）。

まあ、言ってしまうえば全て好みの問題なのですが（笑）、僕は彼女の歌い方が自分のそれととても近くて好きです。

コブシを握らない、握らせないフレーズの作り方をぜひ堪能してみてくださいね。

もちろん、第3楽章で確認できる彼女の持つ高いテクニックも必聴ですよ！！

『Stars and Stripes - Bones Apart "Ten"』

http://www.youtube.com/watch?v=84K_3eEd6fU

2つ目は、イギリスのTrombone四重奏団「Bones Apart」です。

この動画内で演奏している曲は、みなさんご存知だと思いますが、スーザ作曲の「星条旗よ永遠なれ」です。

この曲をTrombone4本で見事に演奏しています！

実は、このアンサンブルの演奏を僕は生で聴いたことがあるのですが（確か2001年のオランダで開催されたITF = International Trombone Festivalだったと思います。・・・2003年のフィンランドでのITFだったかも??笑）、各奏者の安定したテクニックで、コンサートのプログラムを簡単に吹ききっていて驚かされたのを覚えています。

その時にCDも買いました！ :)

その時からメンバーの変更などもあったようですが、今も活発に活動しています。

今現在、日本でどのくらい知名度があるのかわかりませんが、ぜひ Trombone 奏者をはじめ、日本の方々にも知ってもらいたいと思うアンサンブルグループの一つです。

今、日本でも新しいアンサンブルグループがたくさんできていて、すごく活発になっていますが、この「Bones Apart」のように、ラクラクとコンサートを吹ききることができ（アンサンブルでコンサートを吹ききることは難しいんです）、各奏者が確固たるテクニックを持ったグループが増えていくことを僕は願っています。

[4] 演奏のヒント！

『スケール（音階）練習』

みなさん、スケールの練習はやってますか？
なかなか根気よく継続してすることは難しいですねえ。

スケール練習は、ただ運指（Tromboneの場合はスライディング）のための練習ではありません。
スケール練習では、音楽的なフレージング、音程感、リズム捉え方などなど、いろいろな内容の練習になりえるんですよ。
ぜひいろいろな工夫をしながら練習してみてくださいね！！

今日はその中で一つ、フレージングの作り方に関する簡単なヒントを。

「導音（どうおん）」というのは知っていますか？
導音とは、音階の下から7つ目の音、1オクターヴ上に上る直前の（一つ前の）音のことです。

導音とは、字のごとく「導く」音です。

何を導くか??

導音が導くのは、その次の音「主音（その調の基礎となる音のこと＝音階のはじめの音＝）」です。

音階練習をする際（なに調でも、長調でも短調でも共通して）、この「導音」を意識して吹いてみて下さい。

例えば、音階の上行形導音からその一つ上の音に行くとき（ほとんどの場合、導音と主音との間は半音です）、この2つの音の距離（＝半音）をしっかりと感じながら丁寧に移動してみます。

どうですか？

それだけでその音階全体において丁寧な感じが出てきませんか？

（簡単に言うと）それだけで音楽的にスケールを吹けるようになります。

また、この2音間の移動のときにハッキリと音の違いを意識しながら吹くだけで、到達感が強く出せたりもします。

ただし、どちらの場合もちゃんと半音の音程が取れている場合に限ると思っておいて下さいね

どうですか？

運指（スライディング）のためだけの練習だと思ってスケールの練習をするのと比べて、こちらのほうがやる気になりませんか？

ぜひ、こういうことも少しずつ考えながらスケール練習に取り組んでみて下さい。

P.S. いきなり長調、短調全てをやろうとすると心が疲れちゃいます。まずは長調だけでいいのでやってみてくださいね！（長調、短調で分けるのはアリだと思いますが、「すべての調を練習する」ということは必ずやってみてくださいね！そうするといろいろなところで効果が表れてきますよ。

編集後記

「秋」というのはカレンダー上での数字ばかりで、暑い日が続いていますねえ・・・（涙）。

扇風機を片付けようと思っていたのに、ここ数日はその扇風機に大変お世話になっています（笑）。

来週からベルギーとノルウェーに行くのに、まだ冬服を出してもいません（今、夏服がなくなると逆に困るし・・・）。

秋はものすごく元気が出てとっても精力的に活動ができる僕なのですが、今年はどうも体と頭が「秋」だと認識していないようで、エンジンのかかり方に勢いがないように感じています（笑）。

そんな中でも頑張って、春から着手していた新しいウェブサイトをようやく完成しました！！
まだまだ改良を加えていく予定です。
これからもよろしくお願いします。

あと、2013年11月29日（金）に、愛媛県松山市でEuphonium
でのソロ・リサイタルを開きます。
詳細はオフィシャルサイトの「イベント情報」で！
ぜひ聴きに来てください！！

阿部 竜之介(Pepe) オフィシャルウェブサイト

<http://www.pepeabe.com>

ご意見、感想、質問などはメールでどうぞ！

info@pepeabe.com